

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2025年3月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2025年3月7日～3月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 129社
- 回収率 64.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり进行意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

業況・採算：（好転）－（悪化）／ 売上：（増加）－（減少）／ 仕入単価：（下落）－（上昇）

販売単価：（上昇）－（下落）／ 従業員：（不足）－（過剰）

旭川市概況

※全産業の3月の状況を見ると業況DIは、前月より5.7ポイント改善の▲15.5となった。

2017年9月以来91ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3カ月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲16.3、当月と比べ0.8ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2024年 10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	先行き見通し 2025年4月～ 2025年6月
業況	▲21.6	▲21.8	▲15.1	▲22.4	▲21.2	▲15.5	▲16.3
売上	▲13.1	▲8.3	▲5.5	▲9.7	▲7.6	▲3.9	▲7.7
採算	▲24.6	▲27.8	▲23.0	▲26.8	▲27.3	▲17.8	▲20.1
仕入単価	▲66.9	▲66.9	▲69.0	▲64.9	▲62.1	▲64.3	▲60.4
販売単価	34.7	32.3	41.2	35.9	26.5	37.2	32.5
従業員	31.6	31.6	33.3	34.3	32.6	28.7	27.9
資金繰り	▲13.1	▲13.5	▲11.2	▲11.9	▲13.6	▲8.6	▲10.1

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2024年 10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	先行き見通し 2025年4月～ 2025年6月
建設	▲29.0	▲36.3	▲23.3	▲35.5	▲34.4	▲30.0	▲13.4
製造	▲25.0	▲32.2	▲12.9	▲27.3	▲32.4	▲9.4	▲15.6
卸売	▲15.4	▲10.7	▲3.6	▲10.0	▲7.4	▲14.3	▲14.3
小売	▲16.7	▲15.8	▲10.6	▲27.8	▲38.9	▲25.0	▲31.3
サービス	▲17.4	▲4.6	▲27.7	▲9.1	14.3	0.0	▲13.1

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	・上川管内及び旭川地区における民間元請建築物の需要が望めない状況。札幌地区での積極的な営業展開を図らねば今後も厳しい状況が予想される。（総合工事） ・インフレ基調の定着で官需・民需とも予算上の粗利益率は向上している。個人住宅需要は大幅減だが、ここ2年の職人の離職を止めることが肝要で、踏ん張るしかない。（総合工事） ・大工不足が最大の課題。今後も計画的な募集・大工の労働環境見直しや処遇改善による定着率向上も図っていく。（建築業） ・新築は減少傾向にあるが、比較的手軽な補助金の影響もあり、リフォームは期待できそう。人手不足感はあるが大工は外注も順調にあり、現場は予定通り進められている。（建築業）
製造業	・主原料の米価格高騰が収益悪化に大きく影響。現物の供給状況や価格も見通し立たず厳しい年になると思われる。（食料品） ・利益の確保、従業員の教育、経費のスリム化、生産性向上。3月末単価改定により売上増。仕入額の圧縮見込み。（食料品） ・食品・エネルギーコスト上昇で一般消費者の消費がかなり厳しい反面、商業施設やホテルでの需要が少しずつ増えている。（家具・木材） ・原材料・エネルギーのコスト増。原材料集荷の地区によるバラつきがある。（家具・木材） ・4月からの資材上昇が見込まれ、更に価格改定を模索中。（金属窯業他）
卸売業	・前年度と同等の業況といえる。価格転嫁と売上数量の増加が重要になってくる。（機械鋼材） ・当月の業況は、前年同期に比べやや微減に推移。新年度から起算するとスタートダッシュは低調であるも、足元の数字をみると取引件数は徐々に増加している。現状の推移活動においては顧客ニーズの発掘に努め、更なる取引拡大にまい進している。（その他） ・生活者の可処分所得増加が実感できない状況下での物価高止まりで、消費行動が高齢者を中心に鈍化している。（その他）
小売業	・3月に入り春物新作商品が店内に揃い大学へ進学・新社会人になる来客が増えるのだが、前年に比べ少なくなっている。スーツの需要がなく売上も苦戦している。円安の影響・商品値上がりの影響もありお客様は我慢されているでしょうか。（衣服身回品） ・米・たまご・青果物等、加工食品の値上がりが続いており、買上げ点数減少傾向も続いている。春闘の結果次第では更に買い控えも予想される。（食料品） ・食品・エネルギーコストの上昇で一般消費者の消費がかなり厳しい。インバウンド来客も減ってきており、一段落感がある。（その他） ・決算期を迎えて宣伝・販促策の効果もあり、それなりに客足は伸びてきているが、期待するほど売上は伸びていない。コスト高・人件費の高騰を考えると採算の悪化は避けられないと考えている。（自動車）
サービス業	・インバウンド需要が2・3月とあり、3月は昨対を上回れそうだが、エネルギーコストが高止まりのまま下落せず、利益を圧迫。また、食材コストも相変わらず上昇で利益をどこでとれば良いか不明。今後も、エネルギーコスト・食材コスト・人件費と費用は上がり続けるのでどこかのタイミングで、再度値上げを行わないといけないと感じる。（理美容・クリーニング） ・エネルギー費やそれ以外の諸物価高騰で費用が増加。宿泊単価のUPで吸収するしか方策が無い。（ホテル・旅館） ・公共工事においては労務者単価の上昇により、採算の向上が見込まれる。（その他） ・毎年販売価格値上げしているが、また次年度も値上げになると思われる。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	売上 DI21.2 ポイント改善、採算 DI26.6 ポイント改善、仕入単価 DI5.2 ポイント改善、販売単価 DI17.6 ポイント改善、資金 DI5.6 ポイント改善、従業員 DI7.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 4.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他 5 ポイント悪化、総合工事横ばい、建築業 25 ポイント改善となった。現場の契約状況により毎月の業績に波があるためなかなか好転して行かないとの声も寄せられている。
製造業	売上 DI18.1 ポイント改善、採算 DI19.5 ポイント改善、仕入単価 DI0.5 ポイント悪化、販売単価 DI13.7 ポイント改善、資金 DI17.3 ポイント改善、従業員 DI5.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 23.0 ポイント改善となった。業種別では、金属窯業他 3 ポイント悪化、食料品 33 ポイント、印刷・出版 23 ポイント、家具・木材 40 ポイント改善となった。売上高は伸びているが仕入単価の上昇・人件費の増により利益は横ばいとの声も寄せられている。
卸売業	売上 DI28.8 ポイント悪化、採算 DI3.4 ポイント悪化、仕入単価 DI2.0 ポイント改善、販売単価 DI2.3 ポイント改善、資金 DI3.7 ポイント改善、従業員 DI4.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.9 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等、その他横ばい、食料品 19 ポイント、機械鋼材 11 ポイント悪化となった。民間工事が少ないとの声も寄せられている。
小売業	売上 DI27.1 ポイント改善、採算 DI11.8 ポイント改善、仕入単価 DI20.2 ポイント悪化、販売単価 DI11.1 ポイント改善、資金 DI4.2 ポイント改善、従業員 DI5.6 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 13.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品 50 ポイント悪化、食料品、自動車横ばい、その他 38 ポイント改善となった。原材料の値上げが収益に影響しているとの声も寄せられている。
サービス業	売上 DI25.0 ポイント悪化、採算 DI23.4 ポイント悪化、仕入単価 DI7.7 ポイント悪化、販売単価 DI6.2 ポイント改善、資金 DI12.6 ポイント悪化、従業員 DI3.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 14.3 ポイント悪化となった。業種別では、理美容・クリーニング 50 ポイント、整備業 17 ポイント改善、飲食、運送横ばい、ホテル・旅館 43 ポイント、その他 20 ポイント悪化となった。新年度より会社体制も変わり、ますます安定した経営体質をつくれるように精進するとの声も寄せられている。